

*Japanese Association of Trombonists*

# JAT NEWS

第 65 号

日本トロンボーン協会会報 2005.5 発行

事務局：〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14 MBS音羽ビル5F プロアルテムジケ内 tel.03-3943-6677 fax.03-3943-6659  
郵便振込：日本トロンボーン協会事務局 東京 9-175867

## 新会長に井上順平氏が就任

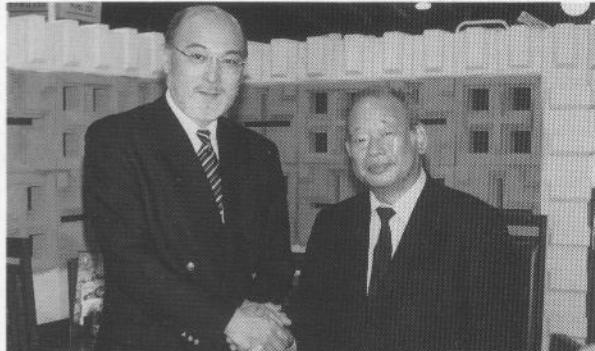
この度日本トロンボーン協会の会長に任せられました井上順平です。当協会も設立以来20年を迎えようとしていますが、その精神が今日まで脈々と受け継がれ、フェスティバル、アカデミー、コンペティション等の年間行事を途切れる事なく行えたのは会員の方々をはじめ、前会長を始めとする歴代会長と理事の方々の献身的な努力によるたまものと感謝いたしております。

新体制でのスタートにあたり、これまでの各行事の継続は勿論の事、永年の課題であります会員拡大を目指しやって行きたいと思っております。また日本各地に存在するトロンボーン協会との連携を進め、益々の会の隆盛をはかりたいと思っております。

継続は力なり！を信条に、微力ながら前進していきたいと思います。皆様の御協力ををお願い致します。

最後になりましたが、三輪前会長をはじめ、菌田、神谷副会長の永年に渡る御尽力に改めて感謝いたします。かさねて毎回御協力下さいます協賛各社各位様に感謝申しあげますと共に、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

平成17年5月1日 日本トロンボーン協会会長 井上順平



(井上新会長と三輪前会長)

**事務局より** 総会が2005年3月19日に滝野川会館会議室にて開かれました。三輪純生会長、菌田憲一副会长、神谷敏副会长の退任が承認され、新会長として井上順平氏(都響)が選出されました。また、4月13日に理事会が開かれ、井上新会長の下、下記の新執行部が決定されました。副会长には箱山芳樹氏(日フィル)、村上準一郎氏(Big Band Express)、西山健治氏(ジャズトロンボーンプレーヤー)の就任が決定しました。また、伊藤清氏、春山和雄氏には顧問に、三輪純生前会長、菌田憲一前副会长、神谷敏副会长には相談役に就任していただくことが決まりました。2005年度からは新たに常任理事を設け、協会の運営にあたっていただくことになりました。三輪前会長、菌田前副会长、神谷前副会长には、長く協会のためにご尽力いただきましたことを、新役員一同心より感謝いたします。

### 2005年度役員名簿(50音順)

会長：井上 順平 副会長：西山 健治、箱山 芳樹、村上 準一郎 理事長：今井 順夫

相談役：神谷 敏、菌田 憲一、三輪 純生 常任理事：荻野 昇、亀谷 彰一、白石 直之、角田 健一、中村 博邦、萩谷 克巳、松本 熙、山田 裕治 理事(担当)：伊波 瞳(イベント)、大塚 善弘(アカデミー&フェスティバル)、加藤 直明(アカデミー&フェスティバル)、岸名 和巳(コンペティション)、郡 恭一郎(アカデミー&フェスティバル)、首藤 健一(コンペティション)、細谷 道生(イベント) 牧瀬 顯利(アカデミー&フェスティバル)、村田 厚生(会員)、村田 秀文(会報) 事務局長：志村 努 名誉会員：谷 啓

顧問：伊藤 清、河辺 浩市、佐藤 菊夫、関根 五郎、永瀬 幸雄、春山 和雄、福田 日出彦、前田 保

# 第7回トロンボーンアカデミー& フェスティバルレポート

去る3月19・20・21日に開催されたトロンボーンアカデミー＆フェスティバルは終了致しました。

19日 Trb アカデミー＆フェスティバル初日、無事終了いたしました。前夜祭はいつもよりは少なめでしたが、常連さん、新規の方々、プロの方々と、和やかに語らいやアンサンブルを楽しめました。実際に4時間に渡る壮大な会でした！まだご参加された事の無い方は次回是非いらして下さいませ。きっと大いに楽しんで頂ける事と思います。20日は朝からアカデミー。個人レッスンは大盛況でした。各部屋ごとの各クラスも非常に有意義な会だったようで、受講生の皆さん達の発表会も楽しくも心温まる会でした。そしてフェスティバル部門も開幕。

アンコンはついにあの「弥平四郎アンパンヤプラスアンサンブルアカデミー」が三連覇を達成！！ またリピーターの各団体の皆さんもかなり善戦されていました！

来年はもっともっと参加団体が増える事を大いに期待したいと思います。

コンペ入賞者の3人（小篠、中野、伊東のお三方）の演奏もとても良く、これらの皆さんの成長がとても楽しみです。

トリを飾りました学連の演奏は各学校、全体合奏ともとても良かったと思います。年を追うごとに成長の跡が見られて素晴らしいと思います。来年も更に大いに期待したいと思います。終演後の学生さん方の真摯な姿が印象的でしたし、各校とも非常に打ち解けていて、学連も本当に良い感じになってきていると思います。

21日 この日も早朝から熱心な個人レッスンが繰り広げられました。お蔭様で大好評で、急速クラスを増設する有様でした。リピーターの方も多く、またそういう方々のレベルアップも目に見えて感じられました。

また遠くは岩手、石川、静岡、山梨、愛媛、徳島、高知、宮崎等、様々な所から受講生が集り、これもまた嬉しい思いました。

午後は「トロンボーン屋台村」いや～～実に楽しい会でした。心配された客足も蓋を開けてみれば大盛況で小ホールが熱気ムンムン。人人人、音音音で熱かったです！その賑やかさは想像を遥かに超える物でした（笑）

各社の楽器やマウスピースを思う存分吹き比べられて、

ミュートやCD、関連グッズの展示もありました。同業他社の触れ合いや、各社、お互いの楽器を試奏しあう光景も見受けられ興味深かったです。

理事やゲストのダカンコシスターズ。のデモ演奏もあり（各社のマウスピースや楽器の吹き比べ、ミュートの実演など）、又、歴代のジョージ・ロバーツモデルの吹き・聞き比べなどの楽しい企画もあり、あつと言葉の3時間でした！協賛各社の皆様方にも大いに喜んで頂けたのではないか？ 当初3時間は長いかなあ～？と思っていましたが、次回はもっと長くても良いかも・・・と思ってしまいました。

そして河村百丈氏のマウスピース講座も入り満員で、予定時間をオーバーする盛況ぶり。氏の長年の体験談も聞けて意義深い会と思いました。 村上理事の悩み相談コー

ナーも多くの方々が集り熱心に開催されました。

別室では首藤理事と受講生の皆さん達との和やかなデュエット大会も繰り広げられ、とても微笑ましく思いました。

最後にスペシャルゲストのコンサートが



ありました。

・ダカンコシスターズ。：今夜の為だけに結成された、全員が管打楽器コンクール上位入賞者による、夢のスーパーカルテット。その名に全く恥じない非常に素晴らしい響き、演奏でした。シリアルな曲から楽しい曲まで、とにかくそのサウンドの美しさ、響きの素晴らしさとセンスの良さに会場の全員が惜しみない拍手を送っていました。トップを曲によりローテーションしていましたが、各自の個性が随所に見られてとても楽しめました。山口氏の絶妙のトークもありあって、時間の経つ事を忘れてしましました。バストロの篠崎氏のチャルダッシュでのパフォーマンスも会場を沸かせました。実はもう一曲アンコールが有ったそうですが、時間の都合でやむなくカット・・・非常に残念でした。今後も是非最初で最後とは言わず、今後も活動を続けて欲しい物だと強く思いました。

・ハシヤンプロジェクト：お洒落でカッコイイ選曲・アレンジ。各自の音の良さやアドリブの感銘度。楽しいトークなど、これまたとても楽しめました。4人のアンサンブルのサウンドが素晴らしい、かつ、アドリブ時は各自の個性

が見事に浮き彫りになり、聞き惚れました。 佐野氏の芸達者ぶりには皆唖然としました。(トーク、ハーモニカ、指笛、バーカッション、フルート！勿論 Trb も！ その他にも彼は作編曲の名人でも有ります。) 橋本氏、渡辺氏、家中氏の素晴らしさは昨年も実証済みですが、今回更に磨きがかかるていました。そして池田氏の熱くセンス溢れるソロも素晴らしいです。 ベルリオーズの幻想交響曲をベースにした「GENSO BLUES」も非常に楽しめました。

メンバー全員が 音大崩れというトークが有りましたが、楽しい幻想でした。今後の更なる活躍がとても楽しみです。

もうゲストも毎年毎年違う方々が出演されて来た為、名前を目にするグループはかなり出尽くした感が有り、頭を悩ましていましたが、今回のゲスト演奏を聞いてみて、まだ

[写真：大作晃一 大塚善弘 村上準一郎]

【19日懇親会】



まだ工夫により色々とやっていくものだと確信、再発見致しました。

最後に恒例の全員合奏で、村田厚生理事の編曲で「涙そうそう」、村上理事の編曲で「この素晴らしい世界」(第2回 Trb フェスティバルで演奏された懐かしい曲)が三輪会長の指揮で演奏されました。 全員のサウンドやハーモニーがとても暖かく、目頭が熱くなりました。

三輪会長が今回を持ってご勇退なさるのでその後挨拶もありまして、感動的でした。 その後私も実行委員長としてご挨拶させて頂き、無事、大成功と言っていい内容で終わる事が出来ました。

私も若輩ながら、2度目の実行委員長を務めさせて頂き、実行委員の皆様、理事の皆様、プロアルテ様、協賛会社の皆様、そしてお世話いただいた全ての皆様のお陰で無事務めあげる事が出来ました。本当に有難う御座いました。

【懇親会での全員合奏】



【アカデミー村田厚生氏による初級クラス】



【受講者発表会 初級クラス】

【受講者発表会 中級クラス】



【学生連盟】



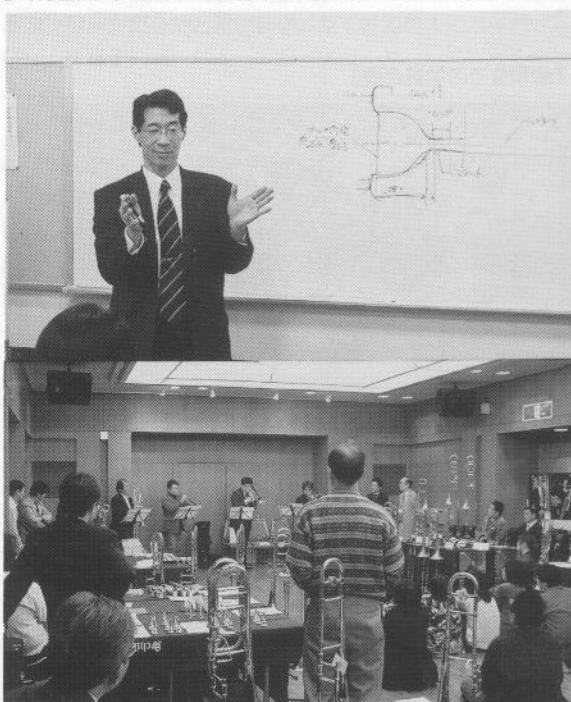


【T1バトル3連覇!!弥平四郎アンパンヤプラスアカデミー】



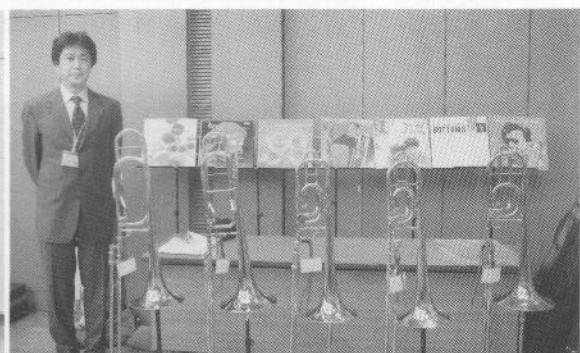
【T1バトルで好演した愛媛の中学生デュオ キャメリアーズ】

【川村百丈（アトリエモモ）によるマウスピース講座】



【トロンボーン屋台村】

【大塚氏による歴代名器ジョージロバーツモデルの展示】



【ダカンコシスターズ。によるベストプラスサイレント  
ミュートのデモ演奏】

【ダカンコシスターズ。】

【ハシヤンプロジェクト】

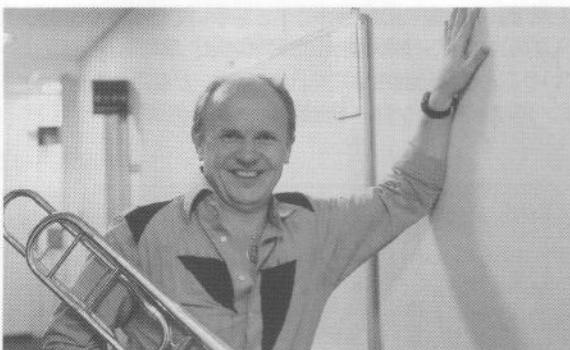


# REPORTS OF TROMBONISTS

無伴奏トロンボーンリサイタル

## クリスチャン・リンドバーグ

去る2005年2月13日武藏野市民文化会館小ホールにおいてクリスチャン・リンドバーグ無伴奏トロンボーン・リサイタルが催された。演奏曲目は以下の通り。三つの中世のダンス音楽、2つのグレゴリオ聖歌（作曲者不詳）、「マイファニーヴァレンタイン」による変奏曲（C. リンドバーグ）、トロンボーンとテープのためのキット・ボーンズ冒険旅行（F. ヘグベルイ）、ポンペイ湾の恐怖の食人魚バラクーダ（C. リンドバーグ）、無伴奏トロンボーンのためのジョー・ジャック・ビングルバンディット（C. リンドバーグ）、オートバイ小旅行（J. サンドストレム）「スコットランドの釣り鐘草」による変奏曲（A. ブライヤー）



（コンサートを終えて楽屋にて）

トロンボーントリオ

## ハイパートロンボーンズ



先日開催された「しおんチャペル コンサート～LoveLove トロンボーン～」ハイパートロンボーンズとしては実に9年ぶりのコンサートとのこと。今回は保育園のチャペルでの演奏と聞き、響きに期待していました。リハーサルを終えた後メンバーの方から広さも響きもトリオをやるにはちょうど良いと聞き、益々当日が楽しみになるのでした。当日まだお母さんが迎えに来ていない子供たちが残る保育園に入ると職員の先生方が暖かく迎えて下さいました。既に「LoveLove」気分です。チャペルに入るとまだメンバーの皆さんもいらっしゃって簡単に挨拶できました。沼田さんにはバストロのレッスンをお願いしているので既に顔見知りなのですが大内さんと山崎さんとはこれが初対面でした。しかしながらとてもフレンドリーに接して頂き感動でした。更に「LoveLove」気分です（笑）

いよいよ本番。オペラ「魔笛」より序曲でスタートです。冒頭のハーモニーを聴けば詳しいことを知らないでも「これがトロンボーンの音なのか・・・」と十分に感じたことと思います。総合司会の山崎さんを中心にメンバーの皆さん三人三様にお話しが楽しく、終始和やかな雰囲気でコンサートは進行して行きました。演奏曲目もシュベール、ブルックナー、ヘンデル等のクラシックからドリカム、宮崎アニメまで実にバラエティなものでした。中盤では「オーケストラの中のトロンボーン」と題して運命、ブラームスの交響曲第一番、スターウォーズのテーマの曲中でトロンボーンが活躍する部分をピックアップして演奏するなどトロンボーンを知っている方でも知らない方でも十分楽しめるコンサートとなりました。休憩中は保育園で用意してくれたお茶や軽食でしばしメンバーも交えての歓談となりました。こんなアット



ホームなコンサートがもっと沢山身近にあれば日本の音楽文化も変わらるだろう・・・等と偉そうなことを思うひと時もありました。第二部のほとんどが「ハイパーコレクション」からの選曲、で自分も持っている楽譜の演奏が目の前で、しかも本物が演奏してくれるのはとても勉強になりました。また同時にトリオでこれだけのことをやるのは実に大変だ・・・と強く思われるのでした(汗)「ハイパーコレクション」も順調に増え、今回のコンサートをきっかけにハイパートロンボーンズ再始動と言ったところでしょうか!今後の更なるご活躍を期待します。機会がありましたら皆さんもぜひ足をお運び下さいね!(沼田 直樹)



今回ハイパートロンボーンズのコンサートを聴いて感じたのは、一音一音に心が入っているということです。演奏を聴いてはただただ感動していました。また、会場もアットホームな雰囲気だったので、リラックスして聴くことが出来ました。コンサートの途中ではTbの説明なども入っていたのでTbという楽器を知らない人でも十分楽しめたと思います。曲のレパートリーも豊富だったので最後まで楽しんで聴くことが出来ました。そして何より、私がコンサートに来て良かったなあと思ったのは「Tbをさらに好きになった!」という実感が持てたことです。私は高校の吹奏楽でTbを吹いていますが、コンサートに来る前は自分の音が気に入らなくて悩んでいました。しかしコンサートが終わったときには、早くTbを吹きたいう気持ちでいっぱいでした。Tbが素晴らしい楽器だということを再認識させてくれました! どなたでも楽しめるコンサートだったと思います。たくさん的人にハイパートロンボーンズのコンサートを聴いて欲しいです!!

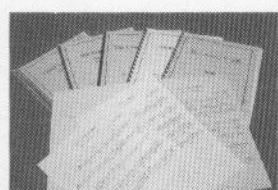
(高山 美喜子)

**しおんチャペルコンサート** 下里しおん保育園は隣接するチャペルにおいて、毎月プロの演奏家を招いて地域に根付いた素晴らしいコンサートを提供しています。一昨年ソロコンサートに出演した山崎は、次回は響きの良いこの会場でハイパートロンボーンズの演奏会が出来たら!と思っていました。幸いにもハイパーコレクションのスタートを契機に長いブランクから新たな活動を開始してから1年が経ち、9年ぶりのコンサートには、こじんまりした同チャペルはとても良い再スタートとなりました。お世話になりました園長先生をはじめスタッフの皆様、駆けつけてくださった地域の方、HPからの情報で来てくれた愛好者の方、プロの演奏家の方々、ほんとうにありがとうございました。

- Hyper Trombones ハイパー トロンボーンズは1991年、大内邦靖 山崎忠男
- 沼田 司の3人のトロンボーン奏者によって結成され、デンマーク・ネシュトベト国際
- 音楽祭招聘によるヨーロッパツアーやかわさりに、これまで3回のリサイタルの他、
- 各地のイベントやコンサートに出演し、トロンボーン3重奏のあり方や新しいレパートリーを模索する音楽活動を展開してきました。新進気鋭の作曲家による新作の初演や委嘱、コンピュータやシーケンサーとの共演などの新しい試みの他、特筆すべきは1996年に催された「自作自演リサイタル」であります。メンバー自身が作・編曲した作品のみで構成されたリサイタルで、作品はそれぞれ個性的ではあるものの、トロンボーン3重奏の多くの経験により築かれたそのクオリティの高さには共通するものがあります。Hyper Trombonesは以後、ほとんど全てのレパートリーをオリジナルの作・編曲作品としており、それらの作品は2004年より「ハイパーコレクション」として出版され、こういったジャンルの楽譜としては異例の反響を呼んでいます。



- **ハイパーコレクション** 私たちプレイヤーにとっても満足のいく作品は本当に数えるほどしか出会えませんでした。それらは初心者向けであったり、内容が高度であっても聴衆には難解な作品であったりで、真に自分たちのレパートリーにはなり得ませんでした。それならいっそのこと自分たちの必要とする音楽は自分たちで創ろう!と、オリジナルの作品創りが始まりました。その甲斐あって、私たちハイパートロンボーンズのコンサートでは、ほぼ全ての演目をメンバー自身のオリジナル作品と委嘱作品で構成されるようになり、高く評価されて現在に至ります。今回ハイパーコレクションとして、これらのオリジナル作品を広く皆様にお届けできることになりました。作品のすべてがインターネットにより試聴可能であり、提携しています楽器店「シアズ」におきまして全国からの注文にお答えしております。
- ハイパートロンボーンズ ウェブサイト <http://artevita.view21.net/trbouchi/index.html>



# アンディ・マーチン

ロス・アンジェルス / スタジオ・プレイヤー

パリ・オペラ座首席トロンボーン奏者

# クリストフ・サンチェ

この所クラシック、ジャズ問わず、外人奏者との交流を出来るだけ積極的に図りたいと自分自身思っている。勿論日本には素晴らしい奏者が沢山いらっしゃるのであるが、日本人自体はまだ外人コンプレックスを持っている人が少なく無い様に思われるし、世界は広いし、世界の音楽やトロンボーンの流れをジャンルを問わず常に肌で感じてみたいという気持ちもある。今回も私の触れたった奏者達をジャンルを問わずレポートさせて頂こうと思います。

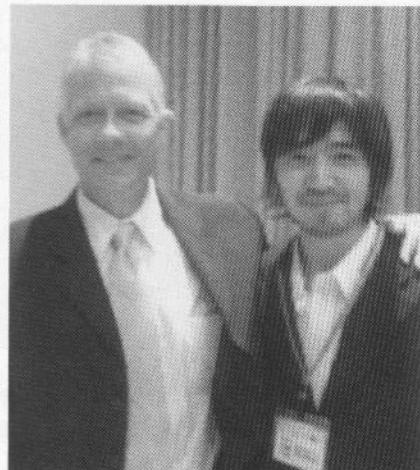
## アンディ・マーチン

皆さんはアンディ・マーチンというトロンボーン奏者をご存知だろうか？私は漠然としか知らなかったのだが、周りの人々や私の生徒などが「素晴らしい奏者です！」と言うので段々興味が沸いて来た。私自身、ジャズ系の外人奏者との共演はビル・ワトラス、ジム・ビュー、と続いているので今回の機会も「大変有り難いもの」として実現の運びとなった。

4月28日にダクで始まったその会は、最初の1時間強、レクチャーと言う形を取った。私自身、彼の生き立ちや日頃のトレーニング方法など、様々な点に興味があつたし、聴衆の方々もそうであろうと思っていた。最初は正直動員を懸念もしたが、蓋をあけてびっくりで、会場は満員。聴衆の方々も、ジャズ、スタジオ、クラシック界の有名人がずらり！！で中々痺れるシチュエーションであった。

今44歳という彼のレクチャーは彼の生き立ちから始まり、質疑応答であつと言う間に時間は過ぎた。「とにかく息が大事である」（彼は日頃から体力トレーニングも欠かしていない。）「マウスピースでのバズィングと楽器での音を交互に吹いて確認する事をこの所大事にしている」「最初は無理せず綺麗な小さめな音でロングトーンをし、温まつたら大きい音も吹く」「自分は基本的にはアドリブの時はシングルタンギングとリップスラーしか使わない」（と言うが、速いフレーズも鮮やかにこなしていて、その立ち上がりの良さも素晴らしい）「毎日頭に浮かんだフレーズを3つづつぐらい、全調で吹ける様にトレーニングしている」「若い頃、Trb奏者以外のフレーズもかなりの数をコピーして吹ける様にした。」「仕事柄、太管やバストロンボーンも勿論演奏しているし、持ち替えは馴れである」（細管はキング2Bのウィグハムモデル+カンスター11の自身のモデル、太管はコーン88H+56、バスはゲッツエンを使用との事。）などなど、話しあきなかつた。

ちなみに彼は今はJ・アレッシのトレーニング方法を日々の練習に取り入れているようだ。



（アンディ氏と須賀裕之氏（昭和音大卒、

彼の経歴はこのサイトをご覧頂きたい→ <http://www.drewbone.com/> 東京M&M尚美在学中、今回の会の立役者）ともかく西海岸で今ジャズ、スタジオ、教育の分野などで引っ張りだこの名手である。若い頃から第一線で活躍した彼の一言一言は、実体験に基づいていて、とても説得力のあるものだった。日本へは7回目の来日と言う事である。ちなみに本格的なソリストでの来日は始めてである。

さて、残りの1時間強はミニライブを行い、私の同級生でもある、# & Trbバストロンボーン奏者の堂本雅樹氏にもお手伝い頂き、ラージTrbアンサンブル+リズム（私の生徒が主体=昭和音大、尚美専門、国立音大、国立音楽院、洗足ジャズ科等）をバックにアンディ氏と私も入り、演奏した。氏の暖かで豊かで滑らかでかつクリーンなサウンドやアタック、よどみなく流れるスムーズでセンスあるフレーズを存分に堪能した。一息がとても長いこと。ビル・ワトラスとはタイプは異なるが、比較的中低音を大切に（勿論ハイトーンもしっかりと当てる）知的さと熱さがとてもよくバランスの取れているタイプで、アンコールでは通訳の椋野謙介氏（プロのTrb奏者）、西島泰介氏（元ゲイスターズ）も加わり、楽しく華やかな会になった。

とにかく人柄も穏やかで優しく、とても魅力のある素晴らしい人物であった。

## クリストフ・サンチェ

世界の中でも重要なポストの一つである「パリ管弦楽団首席奏者」の椅子を、ギヨーム・コテ・ドウモラン（ミリエルカルテットのメンバーでもある）と分け合うクリストフ・サンチェは35歳。今回パリ管で来日中の彼にお願いし、私の生徒にレッスンをお願いした。彼は自分のTrbカルテットを持っていてウェブ上で聞くと大変良い演奏をしている。そ

のうち是非このカルテットも来日して欲しいと思っている。ウェブサイトは <http://www.kimoiz.com/> ベックやチューバの S・ラベリとも共演している。

サンチェはあのパリ管弦楽団の名バストロンボーン奏者と言われたギイ・デスタンクに若い頃師事し腕を磨いた。その後リヨン国立高等音楽院で M・ベックに師事、優秀な成績で卒業し、フランス国内の重要なオケの首席奏者を歴任し、現在のポストにある。レッスンは私の尚美での2人の生徒と私も交え、1時間強、基礎トレーニングを行った。デスタンクに習ったというフレキシビリティの練習を多めに行い(速くて難しい)、各調で色々なリズム/パターンやタンギングの種類も変えてみっちり行った。続いて、生徒2人がブルジョアのコンセルトとボザのバラードのレッスンを受講した。基礎も曲も良い意味で非常にオーソドックスで基本に忠実。インターナショナルな音、奏法、解釈で、大変勉強になった。かつ所々フランス的なお洒落な吹き方も見えて、とても良いレッスンであった。

アンブッシュアや奏法、呼吸法なども、見事に定石通りの理想的なタイプで、見ているだけでも非常に勉強になった。楽器はコルトワ400B赤のハグマンにスライドの外管のみ420の重い方のスライドをさしていた。(動くのかな!?) またフランス人には珍しく!? 凝り性で、マウスピースを他に6本くらい持ち歩き、また普段はマウスピースはバックの6ハーフALだが、今回はボレロを5回! 吹くので、ミリエールモデルの11PMという物を使っていた。(このタイプはボレロが楽との事)

非常に優しく素晴らしい人柄の彼は、「フランスで勉強したいと言う人には、是非事前にフランス語を少しでも多く勉強してから来た方が良い」と勧めていた。また彼はジャズも好きで良く聞いているようだし、クラシック奏者でも、アレッシやバウスフィールドなど、他の素晴らしい奏者の良い所を積極的に取り入れようとしていた。「とにかくアレッシは凄い! 素晴らしい!」と絶賛していた。

彼の来日公演も一度だけ若狭和良氏と一緒に聞きに行ったが、オーケストラも彼もセクションも素晴らしい演奏をしていた。同時に、以前のイヴ・ドゥマークがいた頃の事も懐かしく思い出した。  
(あの頃はあの頃で良かった。) 今回も他にも紹介したい奏者が国、ジャンルを問わず色々いらっしゃったが、残念ながら又の機会にレポートしたいと思います。

リポーター  
郡 恒一郎

シエナ・ウインド・オーケストラ トロンボーン奏者、  
昭和音大 東京ミュージック&メディアアーツ専門学校  
国立音楽院各講師、日本トロンボーン協会常任理事、  
(財) 調布市文化コミュニティ振興財団評議員)

<http://homepage3.nifty.com/cori/>



(高橋亜由美、川原田友美(共に東京M & M 尚美卒) サンチェ、郡)

## 2005 志賀高原サマー ミュージックキャンプ

開催期日 2005年8月15日～18日  
場所 ホテルジャパン志賀

6月1日よりホームページ上で詳細発表と  
参加申し込み受付開始。

URL:<http://www.so-smc.com/>

## 会報編集部より

この会報は日本トロンボーン協会の主旨に添い、内外のトロンボーン奏者、トロンボーン愛好家、音楽ファンを応援すべく発行されています。

会員の皆様の中で会報制作に参加してみたいと思われる方は村上まで御一報下さい。また、情報・質問等をお寄せ下さい。お待ちしております。

### 会報編集担当

E-Mail : [info@jat-home.jp](mailto:info@jat-home.jp)  
HomePage : <http://www.jat-home.jp/>